
ホットニュース(平成16年度／第83号)

●今月の業界ホットニュース／中華街のエネルギー

春節(中国の正月、旧暦で祝う)ということもあって、久し振りに横浜の中華街をのぞいてみた。店の飾り付け以外に春節らしさは感じられなかったが、みなとみらい線開通一周年という宣伝も手伝ってか、もの凄い人出であった。昨年の春節は一月下旬で、まだMM線は開業していなかったので、これほどではなかったろう。

店先販売の豚まん、天津甘栗がいたるところにあり、中華料理屋が軒を連ねている、地区の7～8割は中華料理屋の感で、中華街というよりは中華料理街という方が相応しい。大規模ビルにあるレストラン・フロアが街じゅうに拡がっているともしえるが、それも中華料理だけで壮観である。そのうえ、行列のできている店も少なくないのである。これほどのレストラン高密度地区は、世界でも珍しいのではないだろうか。料理屋だけでこれだけの街を創るとは、さすが中国人感覚といえよう。四千年の食の歴史は、裏返せば飢餓の歴史であり、食べ物がないと安心できない街づくりかもしれない。

街を歩きながら、このエネルギーを何かに応用できないかと考えたが、一寸思いつくものがない。お台場に、ワンフロアをチャイナタウンと銘打ったビルがあるが、作り物の軽さを感じた記憶がある。やはり街のなかで、生活と共に蓄積されて集積された迫力の違いである。そういう意味での街づくりのあり方も考察に値すると思う。

(代表取締役 堀田 紘之)

●通過交通を排除しても・・・

先日、某テレビ番組で「住宅地区内から通過交通を排除する」旨の内容を特集していた。途中から見たので前段部分の内容は分からないが、「住民からの提案でも行政を動かすことは可能」との内容で、様々な地区の事例が紹介されていた。

たしかに、住宅地区内に通過交通が流入することは、どのような考えからでも好ましくない。しかし、何故、住宅地区内に通過交通が流入するのかを考えると、殆どの場合「幹線レベルの道路を通行すると渋滞に巻き込まれる可能性が高い」と運転者が判断するからではないだろうか。つまり、幹線レベルの道路の通行機能が一定以上確保されていれば、この問題の解決に繋がるはずである。しかし、現実には都市計画道路の整備は遅れており、既存の幹線レベルの道路のみだけでは、各地区間を移動する自動車交通を処理することは不可能な地区もある。先の番組で取り上げられていた地区にも都市計画道路整備の進捗が遅れている地区が含まれていた。

住宅地区内への通過交通流入は、その地区の住民にとっては大きな問題であり、また行政にとっても解決を急ぎたい問題である。コミュニティーゾーンに代表される施策により、通過交通を抑制・排除することは可能であるが、抑制・排除された通過交通が行く先も同時に考える必要がある。

(第一計画部 野澤 雅一)

●どんどん祭りを終えて

去る2月6日、私の地元である北区十条の地元3小学校を対象に、子供の健全育成を目的として「どんどん祭り」なるものが開催されました。小学生の合唱、バントワリング、江戸太神楽による獅子舞、地元匠の指導

による子供向工作、おしるこの振舞などが内容でした。

主催は青少年地区委員会というところで、行政の地区組織として30代から50代のボランティア40人程度で構成されています。毎年、色々なイベントを開催し、子供ができるだけ街に出るようし向けています。

では子供は、この街はどうあったら良い考えているのでしょうか。都市計画に関する子供意識調査・日本都市計画学会によりますと、どんな街に住みたいかに対し、犯罪の無いまち・88%、花や草木が沢山あるまち・84%、事故や災害のないまち・77%を上位に挙げています。

あなたが住んでいる街は、子供にとってどうなのでしょう。街で遊ぶことに対して学校や家庭はどう考えているのでしょうか。地域社会の強力な支援があるのでしょうか。もっと街なかにいる子供たちに関心の目を向けることが大切だと思います。

(第二計画部 高尾 利文)

アルメックホットニュース(平成17年2月15日発行)

////////////////////